

令和8年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立天栄小学校

1 学校教育目標

【天栄中学校区共通 めざすこども像】

「互いを認め合い、自らの可能性を信じ、未来を切り拓くこどもの育成」

【天栄小学校 めざす学校像】

- 生きるための基礎となる確かな学力、豊かな心、健やかな身体を育む学校
- 誰もが自分らしく輝き、安心して過ごすことができる学校
- 地域や保護者に信頼され、ともに創造する学校

【めざすこども像】

- 主体的・自律的・協同的に学び続け、新たな価値を創造することも
(自己肯定感・やりぬく力)
- 多様性を認め合い、尊重し、自分らしく輝くこども
(自己肯定感・社会性)
- 困難に立ち向かい、しなやかに生きるこども
(やりぬく力・自制心)

【めざす教師像】

- 主体的に自己研鑽に励む、学び続ける教職員
- 「互いに認め合い、支え合い、学び合い、高め合う」つながりを大切にする教職員
- 何事も誠実・迅速・丁寧・親身に対応し、生徒・保護者から信用・信頼される教職員
- 学校運営と小中連携への参画意識をもち、職務と校務分掌の遂行に努める教職員

2 現状と課題

全国学力・学習状況調査およびみえスタディチェックについては、3校(合川小学校、天名小学校、郡山小学校)いずれも全国平均(みえスタディチェックは県平均)と同等またはそれ以上の結果を示す傾向が見られる。校区において継続して授業改善に取り組んできた成果として、自己調整や他者参照を目的としたスプレッドシートの活用やルーブリックの掲示など、授業の基本的な型は一定程度共有・定着してきた。一方で、児童の活動を意図的に設定することはできているものの、それが主体的・対話的で深い学びにつながっているかについては、依然として課題が残る。

昨年度においても、教室に入ることが難しい児童や、集団での活動への参加が困難な児童、生活リズムが乱れている児童など、多様な課題を抱える児童が各校に在籍している。さらに、3校の再編に伴い環境が大きく変化することから、児童のみならず保護者にも不安の高まりや不安定な様子が見られる。これまで登校できていた児童についても、新たな学校生活への適応に時間を要することが想定されるため、関係者間での情報共有を一層密にし、早期発見・早期対応に努めていく必要がある。

「つづり方」の取組については校区で継続して実施してきたが、その目的や指導方法に関して教職員間でもう一度整理を行い、充実したものしていく。人権教育のねらいや、日常の学校生活における人権感覚の在り方について整理を行い、児童一人一人と

丁寧に向き合いながら、安心して学校生活を送ることができる学級経営の実現に向けて、教職員間の共通理解を図る必要がある。

3校区それぞれの教育的資源について整理・精選を行い、特定の地域に偏ることなく、3地区の特色を生かしたバランスのよい活用を図る必要がある。そのため、校内においては年間指導計画の見直しを進めるとともに、各地区の地域コーディネーターとの連携を一層強化する。また、6年後の義務教育学校の開校を見据え、中学校区での連携を段階的に推進していく。

各校でこれまで培われてきた指導の在り方には差異があるため、丁寧なすり合わせを段階的に進めていく必要がある。そのためには、教職員が日常的に課題や困り感を共有できる風通しのよい職場環境を整備し、迅速な対応につなげていくことが重要である。一方で、調整に伴い会議や打合せの時間が増加することが見込まれるため、業務内容の精査を行い、各分掌の責任者と連携しながら、効率化と時間短縮に向けた取組を継続的に進めていく。

3 学校経営の基本方針(重点目標)

- (1)学力向上(自律した学習者の育成)
- (2)心の教育
- (3)安全・安心な学校づくり
- (4)地域連携
- (5)働きやすい職場づくり

4 達成方策

(1)学力向上(自律した学習者の育成) (自己肯定感・社会性・やりぬく力・自制心)

○一人一台端末を効果的に活用しながら児童が主体的に学ぶ授業を展開し、未来を切り拓く基礎となる学力を培う。

- ・一人一台端末を効果的に活用した、個別最適で協働的な学びの推進
→LDX(後継事業)の取組、情報活用能力育成の授業
- ・低学年からの日常的な英語のコミュニケーション活動の推進
→修学旅行での英語コミュニケーション活動(6年生)
→モーニングイングリッシュの実施(1・2年生)
- ・地域に対する誇りと愛着を育む地域学習の推進
- ・読書活動の充実
→地域ボランティア、PTAによる絵本の読み聞かせ

「自ら学び続けるこどもの育成～深い学びにつなげるための支援や仲間づくりを通して～」を研修主題として校内研修に取り組む。

≪学力向上分析シートより≫

①【主体的な学び】

課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができる。

②【対話的な学び】

学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる。

③【深い学び】

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる。

④【個別最適な学び】

ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら、学習を進めることができる。

⑤【協働的な学び】

授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いが協力しながら、課題の解決に取り組んでいる。

⑥【学びのアウトプット】

授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

(2)心の教育（自己肯定感・社会性・やりぬく力・自制心）

○学校教育活動全体で非認知能力を育成するとともに、多様性を認め合う心を育む。

- ・自己肯定感を高める、中学校区内の継続的な共通取組の実施
→天栄アプリシエイターズ、レジリエンス(非認知能力)の育成、「つづり方」の取組
- ・体験を重視し、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める道徳教育の実施
→未来応援人の活用
- ・教育活動全体を通じた人権カリキュラムに基づく系統的・継続的な人権教育の実施

(3)安全・安心な学校づくり

○誰もが安心して過ごすことができる学校環境を整える。

- ・誰一人取り残さないなかまづくり、授業づくりの推進
- ・多様な学びを実現する、ICTの活用
- ・教職員間の情報共有による、いじめ等の未然防止・早期発見・早期対応
(特別支援教育COを中心とした情報共有の時間を設置)
- ・長期欠席児童への多様な学びを保障する対応
- ・専門家や関係機関と連携した、学校全体の組織的な相談体制、支援体制の構築

- (こども家庭支援課、就学前機関との連携)
- ・PTA やボランティアと連携した、登下校時等の見守り体制の構築

(4) 地域連携

○保護者や地域とともに学校づくりを進めるとともに、中学校区における小中一貫教育を推進する。

- ・義務教育学校設置を見据えた校区連携の体制づくり

- ・「学びの部会」「育ちの部会」を中心とした小中連携の推進
- ・校区としての課題の共有
 - 天栄中学校区校長会、合同研修会等
- ・めざすこども像の明確化や研修主題の統一
- ・承認活動やなかまづくりなど、校区で統一した「つながり」を育む取組の推進
- ・各発達段階に応じた小中一貫した取り組みの整理・充実
- ・義務教育学校開校を意識した小中連携を展開
 - 栄小学校及び天栄中学校との行事等の合同実施
- ・教職員及び児童生徒の連携のさらなる推進
- ・教育委員会事務局と連携した保護者・地域への働きかけ
(周知・意識醸成)

- ・学校運営協議会での熟議及び学校関係者評価による継続的な改善
- ・学校ボランティアや地域学習などへの地域人材の積極的な活用
 - ・地域ボランティアとこどもが交流する「作志(つくし)の部屋」の開設
 - ・読み聞かせや学習活動にかかる支援や安心安全のため、地域ボランティアに協力の依頼
- ・学校だより・学年だより、学校ウェブサイト、メール配信等による情報発信

(5) 働きやすい職場づくり

教職員が働きがいをもつとともに、校務DXを推進し、ワーク・ライフ・バランスがとれる職場環境を整える。

- ・クラウドサービスの活用
(保護者配付文書の一斉配信、教職員間の情報共有、施設等の利用予約等)
- ・校務における生成AIの活用

【目標】

- ・定時退校日に退校できた職員の割合 100%
- ・放課後実施する会議の 60 分以内の終了割合 100%
- ・年 360 時間、月 45 時間を超える時間外教職員0人を目指す。
- ・1人当たりの月平均時間外労働時間を 30 時間以下を目指す。
- ・1人当たりの年平均休暇取得の目標日数を(各学校の)前年度比増を目指す。